令和五年一月は

漢詩鑑賞

**繪島**

**の**

**山陽諸島列成隣　　の　してをし**

**佳境各堪誇北人　　おのにるにえたり**

**一事唯難及斯地　　　のにびきは**

**芙蓉隔海露全身　　　をててをす**

【通釈】起句　山陽の瀬戸内海の島々は隣り合って列を成して並び、

　　　　承句　その佳境の地は何処をとっても関東の人々に自慢出来るも

　　　　　　　のだ。

　　　　転句　だが、ただ一つこの江の島に敵わないものがある。

　　　　結句　それは、富士山が海の向こうに美しい全身を露しているこ

　　　　　　　の眺めだ。

【語釈】　繪島…江の島の美称。

　　　　　佳境…景色のよいところ。

　　　　　堪誇…誇ることが出来る。

　　　　　芙蓉…蓮の花。また富士山の異名。芙蓉峰とも。富士山の頂が

　　　　　　　　雪を冒っている姿を蓮の花に見立てたもの。

【押韻】　平声、真韻。隣、人、身、

【解説】　菅 茶山(一七四八―一八二七)は江戸時代の儒学者。頼山陽等と共に江戸時代後期を代表する漢詩人の一人。備後(広島)の人。若くして京都に上って勉学し、故郷に帰り塾を開いて青年を指導し、後福山藩候の儒員に列した。儒学者と広く交遊し、特に頼春水(頼山陽の父)と親交した。この人の詩「冬夜読書」は平成二十五年十二月この欄で鑑賞した。今回の詩「繪島」は作者六十七歳の作。この年の春作者は鎌倉江の島に遊び相模湾を隔てて全身を白く装った富士山を望んだ時の感動を詠じたもの。起句承句で先ずは瀬戸内海の風景を自慢出来るものだと称え、転句結句で然しこの富士山の眺めだけには敵わないという手法で、その感動を一層強調することに成功した美事な作品です。

以上